

雑兵(ざっぴょう)の詩(うた) 松下幹生

東雲(しののめ)の 空に上がった
刃(やいば)のような 細い月
辺りの雲は 朱に染まり
戦(いくさ)の予兆 伝えてる
あの方は お館様に 駆り出され
北へ十里の 国境(くにざかい)
手柄など 思いもよらぬ
無事に帰れと 手を合わす

如月(にょげつ)には 帰ってくると
たった一言 言い残し
村の門口 男衆(おとこし)と
共に連れ立ち 出て行った
あの方は お館様に 駆り出され
槍一本の 軽装備
身を守る 具足(ぐそく)も無しに
寒空の下 どうしてる

男衆が お館様の 命により
田植えの前に 帰されて
待ち望む あなたを見つけ
嬉し涙に くずれ落ち